

# 北九州

# “空港大作戦” 第1弾

Operation KKJ



令和6年2月  
北九州市

■ 問合せ先  
港湾空港局空港企画課  
・ 担当：高岡、今村  
・ 連絡先：093-582-2308

## はじめに

私は、就任前から北九州空港のポテンシャルを感じていましたが、就任後の滑走路延長の事業化をはじめとする未来に向けた大きな動きを目の当たりにし、その考えは大いなる確信へと変わりました。

現在策定中の、北九州市の新たなビジョン（基本構想・基本計画）の重点戦略のひとつである「稼げるまち」を実現していくためには、北九州空港の発展が不可欠であると考えています。

このような考えから、今回、北九州空港への私の思い、そして発展への道筋をカタチにした『北九州空港大作戦』（第1弾）を発表するものです。

## 北九州空港大作戦について

成長エンジンである北九州空港のポテンシャル・稼ぐ力を高めることで、より多くの“ヒトとモノ”をもっともっと呼び込み、北部九州圏の発展を牽引していく。既存の事業・施策に新たな取組みを加え、中長期の時間軸を含めた総合的なプロジェクトです。空港関係者とこれまで以上に連携し、一丸となりスピード感を持って取り組みます。北九州空港からはじまる北九州市の未来をともに創っていきましょう。

### 《目次》

#### ○現状認識・・・P.2

- 1 北九州空港はポテンシャルに溢れている
- 2 開港以来、旅客・貨物はともに徐々に拡大してきている
- 3 潜在力を最大限に発揮し競争に打ち勝つ

#### ○本 題・・・P5

- 4 北九州空港大作戦の始動
- 5 空港アクセスの強化
- 6 空港大作戦の推進構造
- 7 北九州空港の発展に向けて

#### ○北九州空港アクセス強化施策パッケージ・・・P11



北九州市長 武内 和久

# 1 北九州空港は「ポテンシャル」に溢れている



2

# 2 開港以来、旅客・貨物はともに徐々に拡大してきている

- 2006/3/16 ● 北九州空港誕生 JAL・SFJ就航により羽田便旅客数が3倍に！
- 2018/3 ● 旅客数過去最高（H30年度・2018年度：178万人）外国人入国者数全国第9位
- 2022/3 ● 貨物取扱量過去最高（令和3年度・2021年度：2.2万トン）国際貨物取扱量全国第6位
- 2024/2 ● 現在地



**■外国人入国者数 (インバウンド) 順位**

1位	成田空港	8,731千人
2位	関西空港	7,771千人
3位	羽田空港	4,140千人
4位	福岡空港	2,431千人
5位	那覇空港	1,784千人
6位	新千歳空港	1,750千人
7位	中部空港	1,509千人
8位	鹿児島空港	175千人
9位	北九州空港	149千人
10位	高松空港	122千人

**■国際貨物取扱量順位**

1位	成田空港	2609.3千トン
2位	関西空港	822.3千トン
3位	羽田空港	419.2千トン
4位	中部空港	111.7千トン
5位	福岡空港	26.5千トン
6位	北九州空港	19.6千トン
7位	新千歳空港	13.1千トン
8位	小松空港	5.2千トン
9位	那覇空港	1.2千トン
10位	鹿児島空港	0.2千トン

3

### 3 潜在力を最大限に発揮し競争に打ち勝つ

滑走路3,000m化の事業化（2023.3）



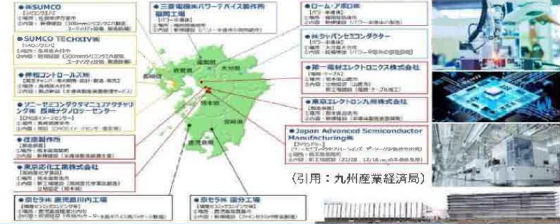
空港のポテンシャルを大きく引き上げ

国際旅客定期便の再開（2023.5）



旺盛なインバウンド需要への期待

シリコンアイランド九州復活の動き



国内外の輸送ニーズの大きな高まり

大きなチャンス波をとらえていく

### 4 北九州”空港大作戦”の始動

「稼げるまち」の実現に向けたプロジェクトを始動!

## 北九州空港大作戦

#### 意義

- 成長エンジンである北九州空港のポテンシャル・稼ぐ力を高め、より多くの“ヒトとモノ”を呼び込み、北部九州圏の発展を牽引していく。
- 既存の事業・施策に新たな取組みを加え、中長期の時間軸を含めた総合的なプロジェクト。
- 空港関係者とこれまで以上に連携し、一丸となりスピード感を持って取り組む。

#### 3つの取組の柱

- 空港アクセスの強化 **第1弾**
- 空港の魅力向上 **第2弾**
- 路線の維持・拡充 **Coming soon**



## 5 空港アクセスの強化

北九州空港アクセス強化施策パッケージ 主要検討・推進項目

バスアクセスを進化	
<b>エアポートバスの利便性向上</b>	
小倉線ノンストップ便	1.5倍に増便  R6実現
朽網線	1.9倍に増便  R6実現
インバウンド旅客向け	タッチ決済導入  R6実現
目的地へダイレクト	バス路線網拡大を推進
<b>乗継ぎ利便性の向上</b>	
福岡方面のアクセス向上	既存高速バスのフル活用を推進

6

## 5 空港アクセスの強化

北九州空港アクセス強化施策パッケージ 主要検討・推進項目

鉄道アクセスを進化	
<b>鉄道の利便性向上</b>	
福岡・大分方面の高速アクセス	最寄り駅への特急停車を推進 
鉄道の空港乗り入れ	空港利用者を増加させ、検討を再開
<b>乗継ぎ利便性の向上</b>	
鉄道乗換え時間の短縮	鉄道ダイヤに対応したバス編成 
複数交通手段のスマートな決済	一括決済サービス導入を推進

7

## 5 空港アクセスの強化

### 北九州空港アクセス強化施策パッケージ 主要検討・推進項目

🖥️ **イノベーションによる進化** ✈️

今から備える新時代への対応

バスの運転手不足への備え	自動運転バスの社会実装を検討
夢のある次世代のアクセスを実現	空飛ぶクルマ等新技術の導入を検討
空港アクセスのGX推進	次世代バイオディーゼルの活用やEV化を推進



自動運転バスの社会実装



空飛ぶクルマ (イメージ)



次世代バイオディーゼルの活用やEV化を推進

8

## 6 空港大作戦の推進構造



9

## 7 北九州空港の発展に向けて



未来を創る北九州空港の物語は続いていく

10

### 空港アクセスの強化：北九州空港アクセス強化施策パッケージ

#### 【目指す姿】

- 近隣他空港との競合が激化する中、空港利用者に時間短縮や多頻度等、利便性の高いアクセスを提供することで満足度の向上と航空旅客の拡大を図る。
- 基幹交通であるエアポートバスを始め、鉄道、自動車など既存交通のフル活用を進めるため、各交通モードにおける利便性を高めるとともにスムーズな乗継環境を提供し、空港と多様な目的地とを結ぶ複合的で、高頻度のアクセスを構築、提供する。
- 北九州空港のアクセス強化により、訪日外国人からの需要が高い、福岡都市圏とのスムーズな移動を提供し、福岡空港が受け止められない需要を補完するとともに両空港の連携をさらに深める。
- 北九州空港で勤務する人達の通勤環境を改善し、担い手確保に寄与する。
- 空港アクセスにDXやGXなどの最先端技術の積極的な導入を進め、持続可能社会に向けたアクセス強化に取組みながら、イノベーション空港として新たな課題解決手法と話題を常に提供していく。
- 空港利用者を増加させ、鉄道の空港乗り入れや2本目のアクセス道路など、長期的な課題の実現を目指す。
- 福岡空港との比較でアクセス利便性が悪い空港と思われがちであるが、近隣他空港と比較した場合に現在でもアクセスの良い空港であることや、今後、利便性を向上する施策導入を効果的に訴求することで、空港圏域住民や旅行者にアクセス利便性の高い空港との認識を持ってもらう。

11

# 北九州空港アクセス強化施策パッケージ

目標

時間短縮等による  
アクセス利便性の向上

アクセス満足度の向上  
と航空旅客の拡大

福岡空港の補完  
・連携機能の強化

空港の通勤環境改善  
と担い手の確保

経済・社会情勢の変化に対応した  
持続可能な空港アクセスの構築

(効果の凡例) 速:速達性向上、頻:頻度増加、量:輸送力増加 客:航空旅客の増加 他:話題性を有する、サービス向上、北福連携

	施策	効果			
		速	頻	量	客
バス	B1	⑤エアポートバスの増便(小倉線ノンストップ便(17→25往復)、朽網線(27→50往復))、④小倉線のパターンダイヤ化			
	B2	⑤朽網線にノンストップシステムを導入し、速達性を向上(17分→15分未満)			
	B3	⑤決済サービスの向上(エアポートバスにタッチ決済を導入)、④座席予約サービスの導入			
	B4	⑤航空便に接続していない時間帯のアクセスバスを活用し、早朝深夜便を利用する空港宿泊客を創出			
	B5	④小倉線に新幹線口バス停を新設し、速達性を向上(所要時間40分→33分)			
	B6	④バス路線網のさらなる拡大、充実(福岡、下関、行橋、別府など)			
鉄道	R1	日豊本線を活用した特急停車駅の創設(⑤朽網駅、④新駅)(黒崎・折尾、大分、福岡方面の利便性向上)			
	R2	⑤鉄道の空港乗り入れ(検討再開に向けて航空旅客数200万人達成に向けた取組みを強力に推進)			
自動車	V1	タクシーサービスの拡充(⑤定額料金エリアの拡大、④相乗タクシーサービスの充実など)			
	V2	レンタカーサービスの拡充(⑤多言語ナビ対応車の増強、④多様な車種など)			
	V3	⑤繁忙期や駐車位置などを考慮した変動型の駐車料金の導入、④駐車場の増設			
	V4	⑤新たなアクセス道路			
乗継ぎ モード横断	T1	⑤福岡方面のバスと接続するバス停(南朽網、中谷、引野口)の待合環境向上し、乗継利便性を向上			
	T2	⑤スマートバス停を活用し、航空やJRなどのタイムリーなアクセス情報を提供することでモード横断しやすい環境を構築			
	T3	複数のアクセス手段の一括決済サービス(⑤バス⇄JR乗継ぎ、④空港MaaS)			
イノベーション	I1	エアポートバスでの自動運転技術の導入(⑤LV2実証試験(朽網線)⇒④社会実装)			
	I2	空飛ぶクルマ等新技术による輸送モードの導入(⑤実証フライト⇒④乗降施設整備・事業者誘致⇒⑤社会実装)			
	I3	次世代バイオディーゼルによる脱炭素化の推進(⑤実証⇒④社会実装・サプライチェーン構築)			
	I4	EVバスによる脱炭素化の推進(⑤急速充電器の整備⇒④EVバスの導入拡大)			
PR	P1	⑤空港アクセス利便性の強力な広報 バスの速達性(33分)や定時性、乗継ぎ利便性、駐車場が安価であること、レンタカーが利用しやすい空港、 福北リムジンと天神相乗タクシーの接続利便性などをSNSで発信、効果的なPRアクションを実施			
	P2	⑤アクセスに関するアンケートなど調査・研究(PRの手段としても活用)			

アクセス強化施策